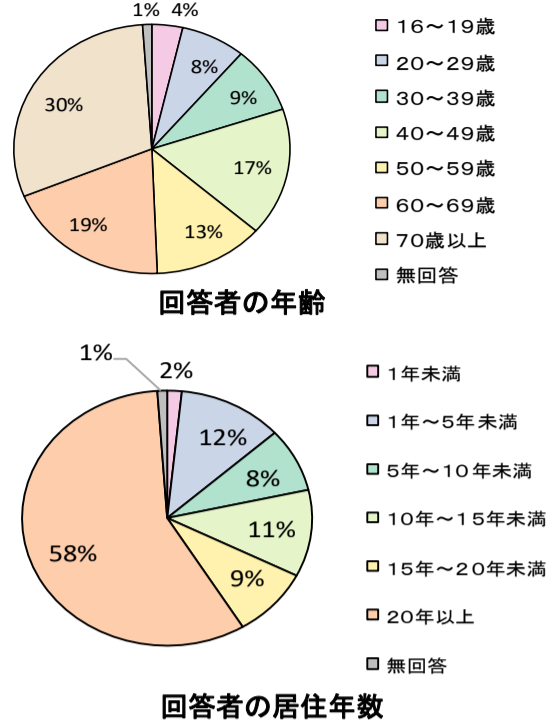
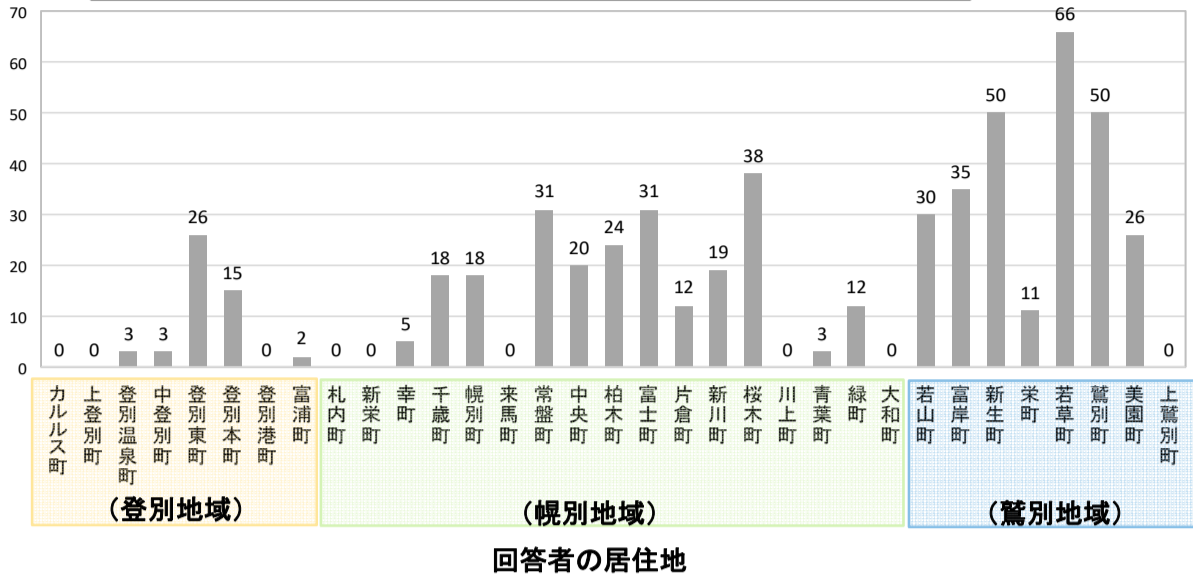


# 登別市みどりの基本計画改定に伴う市民アンケート調査結果について(概要)

調査対象： 16歳から79歳の市民  
 調査方法： 郵送配布・郵送回収  
 調査期間： 令和3年3月15日(月)～令和3年3月25日(木)



## 質問

## 結果

市内のみどりについて	市内のみどりの状態について、どのような印象か。	「豊かである・まあ豊かである」との回答が「道路や河川、公園のみどり」については比較的多かったが、「海岸や工場」については特に少ない結果となりました。また、「海岸や公共施設、商業施設や商店街のみどり」は「不足している・やや不足している」との回答が50%以上と比較的多い結果となりました。
	市内のみどりにおいて最も良い印象を受ける場所について。	亀田記念公園、川上公園、若草中央公園や桜並木(汐見坂から温泉街までの道のりや、市民会館周辺及び鷺別川沿い)と回答した方が多い結果となりました。
	市内で最もみどりが不足していると感じる場所について	特に多かった回答としては、国道36号沿いで、その他駅周辺、海岸沿い、市役所周辺との回答が多い結果となりました。
	市内のみどりについて、今後どうすべきか。	「河川沿いの樹林等のみどりは、保全すべき」、「公園には、もっと樹木や花を植え、みどり豊かな公園にするべき」、「公共施設や商業施設、観光施設など人が集まる場所には、樹木や花を植え、緑化を進めるべき」という項目に対し「思う(ややそう思う含む)」という回答が70%以上ありました。その他の項目においても緑化の推進に関して前向きな回答が半数近く占める結果となりました。
緑化推進	「みどりの講習会・市民緑化推進事業・グリーンデータバンク」について	事業の認知度は、「みどりの講習会」で20%、「市民緑化推進事業」で26%、「グリーンデータバンク」で17%と低い結果となりました。なお、年代別で見ると年齢が上がるほど認知度が高くなる傾向にあることがわかりました。また、事業に参加したいという回答はいずれも20%程度という結果となりました。
市内の公園について	公園の利用状況、利用する目的について	公園の利用頻度については、利用する人(よく利用する、たまに利用する人も含む)の割合が46%となっており、「利用しない・ほとんど利用しない」人51%と比較すると少ない結果となりました。公園を利用する主な目的について「散歩」と回答した人の割合が53%と最も多くなっており、その他「休憩、リフレッシュ」、「子供の遊び場」「自然を楽しむ」と回答した方は、回答者の3割程度となりました。
	公園を「利用しない」理由	「利用する目的がない」、「特に理由はない」と回答した方が多数となりましたが、その他の回答としては「公園が近くにない」、「魅力ある運動施設がない」、「休憩施設がない」との回答が比較的多い結果となりました。
	利用の少ない公園はどうすべきか	利用の少ない公園については、「魅力のある公園になるよう整備する」と回答した人の割合が44%と最も多くなっており、「公園の廃止」を望む回答は7%と少ない結果となりました。
	お住まいの地域の公園数について	公園数について「多すぎるので、減らすべきだ」との回答は非常に少なく、「ちょうど良い」との回答が47%と最も多くなっています。地域別で見ると登別地域では、「少ないので、新しく作ってほしい」との回答が30%あり、他の地域と比較して2倍以上高くなっています。
	公園での犬の散歩について	公園内での犬の散歩については、賛成意見である「自由に散歩できるようにすべき」、「場所を限定して散歩できるようにすべき」と回答した人は65%となっており、反対意見である「禁止すべき」と回答した人は15%と少ない結果となりました。
特別緑地保全地区	「キウシト湿原」の利用について	キウシト湿原の利用については、「利用したことはないが、利用してみたい」と回答した人の割合が38%と最も多い結果となりました。また、キウシト湿原の利用経験者の多くは、今後も利用したいと回答しておりました。
	「キウシト湿原」の今後について	キウシト湿原の今後については、「わからない」と回答した人の割合が最も多い結果となりましたが、「稀少な生物の保全を進める」との回答も29%と多く、「このままでよい」と回答した人の割合は少ない結果となりました。